

組巡を 巡え て回

—組巡回の報告・いただいたご意見—



昨年の教区の組巡回にキッズサンガアドバイザーが同行させてもらい、キッズサンガの説明を中心に行わせていただいた。各組内の僧侶やご門徒から貴重なご意見、厳しいご意見等多くいただいた。そこで、様々なご意見の中からいくつかを紹介し、今後のキッズサンガ運動の参考にしていただければと思う。

提起意見や報告

■このようなことを十年、いや二十年前にやってもらいたかった。うちの地域では、すでに統廃合で小学校はなくなってしまった。特に私のところの地域では「今更このような運動は遅い」といわざるを得ない。

■どの年代が今一番パワーを持っているか？それは高齢者。その高齢者が子どもたちと一緒に何ができる事を今後模索していこうと思う。

■昨年子ども会を行った。正座することも手を合わすこともお念珠を持つことも知らない子がほとんど。正直驚いた。伝承が途切れているってまさにこの事だと感じた。

■月忌を大事にしている。そのご門徒と一緒に正信偈を唱える。土日であれば、子どもたちも一緒に。今後モファミリーを意識していきたい。

■子どもの頃、在家報恩講が勤まる時「ほうおんこうさまにまいっちょくれ」とふれて歩かされた。そのときは何の事かさっぱりわからなかったが、今考えると、すごい事をさせられていたんだなと思う。

■今日キッズサンガの話聞いて素晴らしい運動だと感じた。しかし残念ながら子どもがいらない。ただ、私自身、夏休みに孫が里帰りするので一緒に連れてお寺に参ろうと思った。

■現在、総代四名で協力して近くの公民館を利用して、以前は囲碁教室、今は英語教室も始め子どもを集めて行っている。現在は六名の子どもが来てくれている。しかし、少子化の波は厳しく、現

実に子どもたちを集める事は難しいと、ひしひしと感じている。ただ、帰省する子どもたちに目を向けて、今後は計画を練っていこうと思った。

■仏婦の活動が活発。特に初参式を行い、その子が入学するときはお祝いをあげ、節目節目にお寺との関わりを持ってもらうように努めている。金婚式も町が行ってくれるのは両方がそろっている場合だが、お寺はどちらかだけでも、金婚式をお祝いするようにしている。

組巡回を終えての所感

本来、キッズサンガの願いは「キッズ」を「仏の子ども」と受けとめ、地域のお寺として、そのお寺だからこそできる何かを、あらゆる年齢の仏の子ども（住職や寺族、総代や門徒推進員、仏婦・仏壮・青年・保育関係者等）が集い、「子どもたちがお寺に集まってもらうためには私たちに何ができるのか」と話し合い、実行していく。お寺とそこに集うみんなが生き活きとした、真の「サンガ（同朋）」となることを目指している。

ただ、子どもの少ない現状は厳しいが、キッズサンガの理念等には賛同の意見を多くいただいた。やはり、ご門徒の多くは「お寺を何とかしなければならぬ」「このままでは行く末が危ぶまれる」「三〇年後のお寺の姿を想像できない」という思いが強いと感じた。そのような中、ある地域の門徒推進員が地域の子どもたちを集め、すでにキッズサンガそのものの動きをしていることに感銘を受けた。

このキッズサンガ運動は、無理やり七五〇回大遠忌の事業の一つとして生まれたものではなく、お寺の将来や人間の将来を考えると、必然的に、ごく自然に生まれてきたものだということがよくわかった。

ただ今後、子どもが少ない地域で、どのような活動が可能なのかという具体的なアイデアを収集、研究する必要性を強く感じた。

キッズサンガオーイタ

創刊号

お寺を子どもたちの居場所に

私達はみんな仏の子ども。みんなでのお寺に集まろう！

私達も、動き出しています。

大分教区内のキッズサンガ取り組み実例

白佐組福勝寺

耶馬溪組西浄寺門徒推進員

大野組

キッズサンガとは

キッズサンガは子ども会なの？未経験でも出来るの？

組巡回を終えて

ー組巡回の報告・いただいたご意見ー

二〇一〇（平成二十二年）八月一日発行

発行所

浄土真宗本願寺派大分教区基幹運動推進委員会

大分教区キッズサンガ推進委員会

〒874-1092

大分県別府市北浜三丁目六一三六 本願寺別府別院内

TEL 0977(22)0146

FAX 0977(24)7831

キッズサンガオーイタホームページ

<http://www.kids-sanga-ota.com/>

白佐組福勝寺での 取り組み

『お寺に泊まろうっ！キッズサンガIN福勝寺』

三月の中旬、津久見の福勝寺様にお伺いし、ご住職に詳しく今回の取り組みについて聞いてきた。

今回のきっかけとなったのは娘さんの友達のお寺に泊まりたい：」の一言だったそうだ。そんな思いと組巡回でキッズサンガの説明を聞いた総代や仏婦や仏士の意見が一つとなり「お寺に泊まろうっ！キッズサンガIN福勝寺」が開催された。

地域の子どもたち八人が参加し、スタッフも総代・仏婦・仏士を中心に



きっかけは、「お寺に泊まりたい」の一言でした。



に十名が和気藹々とした雰囲気の中で一泊子ども会を行った。子どもたちの意見を中心に手づくりの企画で、境内でバーベキューあり、浜辺で花火ありと楽しく過ごし、本堂でみんな泊まった。

次の日は、ご門徒の書道の達人による習字教室を開催。楽しくも、夏の宿題の一つが片付くというプレゼント付きのキッズサンガ活動となった。

子どもたちからも、ぜひ来年もやりたいとの声が上がったそうだ。またスタッフからも、竹で箸や皿を作っ

てそうめん流し等、来年の開催に向けて早くもアイデアが続出。そのお寺だからこそできる無理のない形でのキッズサンガ活動だったのだと、ご住職のお話を聞きながら思った。

私達も、動き出しています。

大分教区内のキッズサンガ取り組み事例

※武野門徒推進員さんによる 地域の子どもたちに関わる取り組み

(※耶馬溪組西浄寺門徒推進員)

二月の耶馬溪組巡回の折にこの取り組みを聞き、ぜひ詳しくお聞かせい

た。武野さんは、平成三年十月に門徒推進員となり、お寺への奉仕と聴聞を欠かさずに行っていたそうだ。しかし、地域の為に少しでも奉仕をしたいと、子どもたちに目を向け、土曜日が休みになった平成十四年頃から囲碁教室を、そして今では英語教室も行っている。スタッフは武野さんを含め四名。「囲碁や英語の技術向上も大切だが、礼儀作法もきちっとできるように指導しています。」

武野さんがこの活動を始めたのは、学校での土曜日が休みとなり、子どもたちの土曜日の過ごし方が気になったことがきっかけだったそうだ。地域の公民館の館長だった武野さんは、子どもたちを何とか公民館に引き付ける方法はないものかと考え、囲碁教室を始めた。

「武野さんは本当にお寺のことをよく手伝ってくれる。各法要の時はもちろんのこと、日ごろからお寺に足を運び、仏さまのお給仕を一緒にして下さるんですよ」と語ってくれた。学校が完全週休二日になったときに、土曜学校を行おうと始めた寺院は多かったが、未だに続けているところが何力寺あるのだろうか？



門徒推進員の武野さん（写真右）。左はご住職

阿弥陀様のお給仕も地域の子どもたちへの奉仕も、武野さんにとっては大切な大切な門徒推進員としての活動である。私は武野さんの活動の中にキッズサンガの原点を見た気がする。



大野組の 取り組み

今後の進め方のポイント

▼まず、各寺の「現状把握表」をつくり、推進部会でどのように各寺に対応するか検討。

▼子どもが少ない、またはいないという地域の寺院には、里帰りの時をご縁とできるような方法を模索していくことを勧める。

また、地域に子どもはいるが門徒ではない子が多い、という寺院では「開かれたお寺」という考え方から、「うちの門徒」「よその門徒」と区別することなく、信仰事情等を考慮しながらも、地域全体に呼びかけをしていくことも必要ではないかと勧めていく。

▼特に子どもの少ない寺院には、総代や仏婦や仏壮が手作りで腕輪念珠作り、都会に出ているお孫さん等に贈り、里帰りの時などにその腕輪念珠を持ってお参りに来てもらう。という活動を勧めてみることをすすめる。

▼各寺に電話をし、総代や仏婦・仏壮、近くの門徒に集まってもらい、住職・坊主、寺族等の同席の上で、こちら（サポーターと組の三役の誰か）からの説明と意見交換を行うこととする。

ところが、こちらから「皆さん（総代仏婦仏壮門徒）を集めて下さい、説明に行きますから」では、いい返事がもらえなかった。そこで「年度末の総代会にこちらか出向きますので、その時にできれば仏婦や仏壮・門徒の方に

も集まっていただければ…」と、方針を変えたところ、ほとんどの寺院で受け入れて下さった。ただし、日曜日や夜の時間に集中するので、サポーター等こちらから説明に行ける人を調整するのがかなり難しい作業である…。

説明会での反応

あるお寺での説明会で、最初は「子どもがおらんのにどうせいち言うんかい」という意見が多かったが、そのうちに「総代会で、こんな子どもたちを集めるだとか、参拝者を増やすためにはとか、活気あるお寺にするためにどうしたら良いかとか話し合ったことが無かった。初めてやな。こげなことも話をすることは大事やな!」というご意見をいただいたり、「わしもこの頃、あまりお参りしちよらんかった。今度、家族はお参りに来んといけんな…」とか、さらに「今度、仏婦も一緒にこんなことについて話をしよう。そんな時は、ご院家さんまた説明に来ちくるんかい。わざわざ来ちくるんや、今度は一杯ださにならんや」と、最後は和氣藹々の雰囲気の中で、また来ることを約束して帰った。

感想

一回だけで解ってもらえるものではないと感じた。ただ、こんな話をしに、今までよそのお寺さんに出向いたことが無かったというのが正直なところ。キッズサンガの説明と言いながら、話し合い法座の様相となり、総代さん方を始め門徒の皆さんの本音をお聞かせいただきながら、この方々は「お寺をどげえかせんといかん」と強く思っている、ということがよくわかった。こ

れ、過疎対策につながらないかな?。そして、今だったらまだ間に合う。幼い時に、おそらく阿弥陀様のご恩を喜びながら日暮しなされている方に育てられた経験を持つ方がいるうちに、何とかしなければと強く感じた。

来て!見て!かたって!キッズサンガ

今年開催されるキッズサンガの取り組みの一部を紹介致します。ご自由に見学できます。行って見て、参加してみませんか?(それぞれのお寺に、お問い合わせください)

- 8月22日 午前10時 院内組「院内組 キッズサンガ 子どものつどい」
(腕輪念珠作り・団子汁作り・竹トンボ作り等々、市の社会福祉協議会と共催)
灘 安楽寺(0978-36-2228)
- 8月28日 午後7時 大野組「最乗寺 ファミリー・ボン・フェスタ」
(縁日・ゲーム大会・盆踊り「しんらん音頭」)
大野 最乗寺(0974-34-2030)
- 9月7日 午前9時 大野組「大野組 キッズサンガ研修会」
(重松祐誠さんによる腕輪念珠作りの研修会。門徒・寺族対象)
三重 了因寺(0974-22-1842)
- 9月12日 午前9時 大海組「大海組 稲刈りとバーベキュー」
(親子で稲刈りとバーベキュー。昨年はこの収穫米を、子どもたちの代表がご本山に上納しました。)
野津原 専念寺(090-3323-5213)

他に、7月の中旬から8月の下旬まで、教区内の十数ヶ寺のお寺で「キッズサンガ」を銘打った夏の子ども会が開催されます。詳しくは、ホームページをご覧ください。

キッズサンガオーイタ ホームページ
<http://www.kids-sangha-oita.com/>

